vinetur

# 低価格のバルク出荷増で、アルゼンチンのワイン輸出額は数量増にもかかわらず減少

1～10月のワイン輸出量は5.4%増の1億6,916万リットルとなったが、FOBベースの輸出額は2.6%減の5億4,038万ドルだった

2026年11月11日（水）



アルゼンチンは年初10カ月に海外向けワイン出荷を増やしたものの、販売収入は減少した。低価格のバルク出荷の伸びが、瓶詰めワイン輸出の低迷を上回ったためだ。

アルゼンチン国立ワイン・ブドウ栽培研究所（INV）によると、1～10月のワイン輸出量は1億6,916万リットルで、2025年の同じ期間を5.4%上回った。一方、FOBベースの輸出額は2.6%減の5億4,038万ドルだった。SIM-INVデータベースを基に作成され、11月2日までの更新分を反映した10月の貿易報告書によると、数値は暫定値であり、遅れて提出される申告や訂正によって変わる可能性がある。

輸出量と輸出額の乖離は大きかった。前年より出荷量は861万リットル増えたが、収入は1,447万ド

ル減少した。平均輸出価格は2025年同期の1リットル当たり3.46ドルから7.6%下落し、3.19ドルとなった。

輸出量の純増分はすべてバルクワインが占めた。バルク出荷量は30.6%増の4,760万リットルとなり、前年より1,115万リットル増加した。しかし、平均価格が1リットル当たり0.96ドルから17.8%下落して0.79ドルとなったため、販売収入の増加は7.4%にとどまり、3,758万ドルだった。この期間、バルクワインはアルゼンチンのワイン輸出量の28.1%を占め、前年の22.7%から上昇したが、輸出額に占める割合は約7%にすぎなかった。

報告書でfraccionadoと呼ばれるパッケージワインは、引き続き輸出収入のほぼすべてを生み出した。収入は5億280万ドルで、総額の約93%を占めたが、前年より3.3%減少した。同カテゴリーの輸出量は2.1%減の1億2,156万リットルで、平均価格は1.3%下落し、1リットル当たり4.14ドルとなった。パッケージワインの収入減は1,706万ドルに上り、バルクワインの増収分260万ドルを大きく上回った。

輸出量の増加の大半は白ワインによるものだった。白ワインの出荷量は29.5%増の3,414万リットルとなったが、輸出額の増加は1.2%にとどまり、8,487万ドルだった。伸びをけん引したのはバルクの白ワインで、出荷量は176.4%増の1,217万リットルに達した。パッケージ白ワインは2,197万リットルとほぼ横ばいで、増加率はわずか0.03%だった。

品目別では、品種表示ワインが引き続きアルゼンチンの輸出の中核を占めた。輸出額全体の88.2%に当たる4億7,661万ドルを生み出したが、2025年同期比では2.8%減少した。輸出量は1.1%増の1億3,800万リットルだった一方、平均価格は3.9%下落し、1リットル当たり3.45ドルとなった。品種表示ワインのうち、パッケージ輸出の収入は3.1%減の4億4,306万ドル、バルク輸出の収入は1.6%増の3,355万ドルだった。

品種表示のないワインでは、輸出量と輸出額の隔たりがさらに大きかった。このカテゴリーの輸出量は33.5%増の2,573万リットルとなったが、収入は3.2%減の4,023万ドルだった。バルク出荷がほぼ3倍に増えたことで、平均価格は27.5%下落し、1リットル当たり1.56ドルとなった。スパークリングワインは輸出量、輸出額とも増加したが、伸び率には差があった。輸出量は12%増の540万リットル、輸出額は1.3%増の2,331万ドルとなった一方、平均価格は9.5%下落し、1リットル当たり4.32ドルだった。

パッケージワインでは、瓶が引き続き主流の容器だった。瓶詰めの輸出量は1億1,767万リットルで、パッケージ輸出量の96.8%を占めたが、前年より1.6%減少した。Tetra　Brikの輸出量は16.3%減の370万リットルだった。バッグ・イン・ボックスの出荷は320.5%増えたものの、もともとの数量がごく少なく、16万6,000リットルにとどまった。パッケージ輸出量に占める割合はわずか0.1%だった。

10月の輸出は年初来の状況を改善したものの、ワインの累計輸出額の減少を埋めるには至らなかった。アルゼンチンの10月のワイン輸出額は6,809万ドルで、2025年10月比19.3%増だった。輸出量は28%増の2,185万リットルとなった。輸出額は前年同月比で2カ月連続の増加となり、9月には17.8%増えていた。これに先立ち、7月は43.8%、8月は27.3%の大幅減だった。報告書の月次データによると、9月と10月を合わせた輸出額は前年同期を2,232万ドル上回った。

10月の輸出額回復を主導したのはパッケージワインだった。同カテゴリーの輸出額は16.1%増の6,275万ドル、輸出量は10.9%増の1,473万リットルとなった。年初来の傾向とは異なり、月間平均価格も上昇し、2025年10月比4.7%高の1リットル当たり約4.26ドルに達した。バルクワインの輸出量は87.8%増の712万リットル、輸出額は76.2%増の534万ドルだった。それでも、低価格のバルク出荷の割合が高まったため、ワイン全体の平均輸出価格は約6.8%下落し、1リットル当たり3.12ドルとなった。

10月の輸出先は、金額と数量で首位が異なった。金額では米国が1,839万ドルで首位となり、月間輸出額の約27%を占めた。輸出量は450万リットルだった。英国は輸出量513万リットルで首位だったが、輸出額は973万ドルだった。この違いは出荷構成を反映している。英国向けはバルクワインが368万リットルに上り、アルゼンチンの10月のバルクワイン輸出全体の半分以上を占めた。一方、米国向けはパッケージワインが中心だった。

ブラジル向けは251万リットルで937万ドルとなり、すべてパッケージワインだった。カナダ向けは165万リットル、498万ドルだった。品種表示ワインでは、マルベックが10月の品種表示ワイン輸出量の69.2%を占め、1,289万リットルに達し、輸出額は3,968万ドルとなった。これは同月のワイン輸出額全体の約58.3%に相当する。カベルネ・ソーヴィニヨンは740万ドル、シャルドネは384万ドルをそれぞれ計上した。

10月の出荷元はメンドーサ州が圧倒的で、輸出量は2,009万リットル、輸出額は6,312万ドルだった。全国の輸出量の91.9%、輸出額の92.7%に当たる。メンドーサ州以外では、サルタ州が38万2,900リットルから198万ドルを生み出し、サンフアン州は100万リットルから106万ドルを計上した。サンフアン州の輸出はバルクワインが中心だったのに対し、サルタ州の輸出は瓶詰めで、この違いが1リットル当たりの収入格差の一因となった。

報告書の対象はワインだけではない。ブドウ果汁が、年初10カ月のワイン輸出額の減少を一部補った。ワインと果汁を合わせた輸出額は6億5,796万ドルで、2025年同期比1%減だった。濃縮果汁と亜硫酸添加果汁の輸出額は6.8%増の1億1,759万ドルとなり、749万ドルを上積みしたことで、ワインで記録した1,447万ドルの減少を一部和らげた。

増加をけん引したのは濃縮果汁だった。輸出量は18.2%増の8万1,355メートルトン、輸出額は8.1%増の1億1,162万ドルとなった。ワインと同様、数量の伸びが金額の伸びを上回った。平均価格は1トン当たり1,500ドルから8.5%下落し、1,372ドルとなった。亜硫酸添加果汁は逆の動きとなり、輸出量は8.8%減の20万1,713ヘクトリットル、輸出額は12.8%減の597万ドルだった。

果汁全体では、10月の輸出は低調だった。輸出額は11%減の1,214万ドルとなった。濃縮果汁の輸出額は1,207万ドルとほぼ横ばいで、輸出量は4.5%増の8,960トンだった。減少の要因は亜硫酸添加果汁で、10月の輸出額は2025年10月の157万ドルから6万5,000ドルに落ち込んだ。ワインと果汁を合わせた同月の輸出額は8,022万ドルで、13.4%増となった。

10月の濃縮果汁の輸出先では、米国が409万ドルで首位だった。南アフリカが245万ドルで続き、日本は202万ドル、カナダは146万ドルだった。出荷元別ではメンドーサ州が811万ドル、サンフアン州が396万ドルを計上し、両州で同月に記録された濃縮果汁の輸出額全額を占めた。